

基本スキル編 「学校の組織、チーム学校」

茨城大学 教授
加藤 崇英



独立行政法人教職員支援機構

はじめに

- 今、全国の学校で、力になってくれる教員が求められています
- 子どもたちのために、学校も変わろうとしています
- 一緒に取り組みましょう
- この動画の内容（目次）
 - 組織としての学校の目標・課題
 - 「チーム学校」とは
 - 教員に求められること

学校が取り組んでいる目標・課題

- ① 新学習指導要領による新たな学びの実現
 - 「主体的・対話的で深い学び」
 - ICTの活用
 - 個別最適な学び、協働的な学び
- ② 教育の質の向上
- ③ 校長先生を中心とした組織的で計画的なマネジメントを展開
- ④ 保護者・地域との信頼関係の構築をさらに進め、連携・協力

学校・教員の「働き方改革」の取り組み

- ① 多忙化の解消
 - 勤務時間の適正化
- ② 負担の軽減
 - 学校の業務、教員の業務の見直し
 - 部活動の負担軽減、地域との連携
- ③ 「チーム学校」の構築と「働き方改革」はセットで取り組まれています
- ④ 個人としても、組織としても改革・改善を進めています

組織として学校マネジメントを展開

- ① 校長先生のリーダーシップを校務分掌を整え、組織的にマネジメントを展開
- ② ミドルリーダーとしての主任や主幹教諭を担う先生方の活躍
- ③ 若手や経験の浅い教員を支える組織
 - 様々な困難を抱える児童生徒への対応
 - 保護者からの要望への対応
- ④ コミュニティスクールなど、保護者や地域との信頼・協力関係

「チーム学校」とは

- ① 中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」による提言
- ② 背景に、教員の多忙化問題
- ③ 教員が本務に集中できる環境づくり
- ④ 職員・専門スタッフの配置
- ⑤ 様々な専門性をもった教職員が連携・協力することで子どもを支える組織

教員の勤務実態と多忙化（国際調査より）

- ① OECD（経済協力開発機構）による第2回（2013年）・国際教員指導環境調査 TALIS
- ② 日本の教員の勤務時間そのものが、他国の教員と比べて著しく長い
- ③ 「授業」や「授業の計画・準備」にかける時間は大きな違いはない
- ④ 「課外活動（スポーツ・文化）」と「一般的事務業務」の負担が大きい

「チーム学校」による支援体制の構築

- ① 教員の本務である授業や直接的な生徒指導等の業務に集中できる体制
- ② 生徒指導や教育相談における心理や福祉等の専門スタッフの支援
 - スクールカウンセラー (SC)
 - スクールソーシャルワーカー (SSW)
- ③ 教員も、専門スタッフも「チーム学校」の一員として連携・協力の体制を構築

「チーム学校」構築の考え方

- ① 校長の指揮の下、校務分掌で職務内容や権限等を明確に位置づけ
- ② 教員の業務を本来的な業務に集中できるように見直していく
- ③ 職員・専門スタッフ、地域人材等が連携・分担する業務を位置づけ
- ④ 教員以外の職員・専門スタッフが連携したり、分担したりすることが効果的な業務を、彼らに移していく

教職員の業務の分類（考え方）

- （a）教員が行うことが期待されている本来的な業務を位置づける
- （b）教員に加え、専門スタッフ、地域人材等が連携・分担することで効果を上げる業務
- （c）教員以外の職員が連携・分担することが効果的な業務
- （d）多様な経験等を有する地域人材等が担う業務としての指導補助業務

職員配置に係る法令改正による整備

- ① スクールカウンセラー
- ② スクールソーシャルワーカー
- ③ 部活動指導員（中学校以上）
- ④ 学校事務職員の役割強化
- ⑤ 医療的ケア看護職員
- ⑥ 情報通信技術支援員
- ⑦ 特別支援教育支援員
- ⑧ 教育業務支援員

教員に求められること

- ① 児童生徒の「丸抱え」「抱え込む」わけでもない、また「丸投げ」でもない
- ② 組織で、教職員みんなの連携・協力
- ③ 児童生徒の抱える問題が深刻な場合には、共通理解をもって諸機関と連絡・連携
- ④ それぞれの専門性に立脚しながら、共に協力して子どもを支えていく

児童生徒に対する支援の転換

- ① 学級担任は、子どもたちの一日の生活の全般を共に過ごしてきた
- ② 子どもの多様性、保護者や地域の状況の複雑さ、困難さが増している
- ③ 学校が「チーム」で対応する必要
- ④ 文部科学省『生徒指導提要』においても「チーム」での対応を強調

協働の文化と改善の課題

- ① 「チーム学校」の構築は、学校における新たな「協働の文化」の構築
- ② 専門性が異なる教職員が連携・協力して成果を出していくことが期待される
- ③ 校長のリーダーシップを中心としたマネジメントによって導いていく

「チーム学校」マネジメントへの期待

- 子どもや保護者だけでなく、一人一人の教員も支えるマネジメント
 - ① 校長・教頭だけでなく、ミドルリーダーが活躍してマネジメントを展開
 - ② いじめや不登校など、学校全体で対応、解決に向けて取り組む
 - ③ クレーム対応、不当な要望、暴力や暴言への備え
 - ④ 警察や弁護士からの支援
 - ⑤ 教育委員会の体制整備に関する責任

「チーム学校」の推進（おわりに）

- ① 教員の業務や働き方を見直し、専門の職員・スタッフ等を加え、新たな連携・協力の組織を推進
- ② これまでの負担を見直し、軽減し、教員の「働き方」を適切に（ワーク・ライフ・バランス）
- ③ 教師が元気であり、活力があって、「やりがい」をもてる学校
- ④ 子どもたちのためにも「チーム学校」の推進が必要